

三郷市議会議員 21世紀クラブ

# あいざわ 圭一郎 けいいちろう

## 地域だより

37歳 走り続ける情熱男!



発行 H25.4.1

Vol.15

逢澤圭一郎と地域をよくする会

341-0018 三郷市早稲田2-10-7

Tel 957-8462 Fax 957-8465

会長 竹本裕司 副会長 稲垣 栄 谷古宇 勇

幹事長 濱口 稔 事務局長 宮田米穂

世話人 吉岡貞義(代表) 葉室和男 高濱國治

齋藤博之 杉橋重一 松川文雄 井上貞夫 西山忠雄

新年度が始まりました。市民皆様方におかれましては、心新たな決意の下、希望を胸にご活躍されていることとお喜び申し上げます。

三郷市議会におきましては、3月定例会(3月1日~25日)が開催され、平成25年度一般会計・特別会計予算等を審議し可決致しました。一般会計では、405億円と6年連続で前年度を上回るものとなりました。市の主な収入源(約47%)である市税の内訳を見ても、市民税や固定資産税など大半が減額の見込み(都市計画税・軽自動車税は増)となっております。国内では“アベノミクス”に対する期待が景気を押し上げている状況ですが、地方経済への波及には時間がかかる模様です。自民党政権、安倍総理大臣の手腕に大いに期待をしたいところです。

### 平成24年3月定例会の主な概要(抜粋)

- 議案第2号 日本一の読書のまち宣言 原案可決(賛成全員)
- 議案第16号 三郷市一般会計補正予算(第4号)
- 江戸川交流拠点整備推進事業 4,000万円  
江戸川堤防拡幅スペースにトイレ・ベンチを設置。
- 道路維持修繕事業 5,300万円  
三郷駅南口から駅前大橋まで道路及び歩道の舗装改修。
- 小中学校耐震化事業 15億9,250万円  
当初計画より2年前倒し。全小中学校耐震化率100%となります。
- 市立図書館・郷土資料館移転新築事業 1億3,000万円  
市役所南側に新たに一体型施設として建設。
- 水路整備事業 7,200万円 不動掘・谷口水路。

原案可決(賛成全員)

歳入	平成25年度	平成24年度	増減率
市税	19,048,296	19,153,503	0.5
地方譲与税	280,000	280,000	0
地方消費税交付金	1,070,000	1,050,000	1.9
地方交付税	1,700,000	1,550,000	9.7
国庫支出金	7,144,608	7,129,361	0.2
県支出金	1,875,680	1,804,480	3.9
繰越金	1,000,000	850,000	17.6
諸収入	2,595,867	2,914,580	10.9
市債	3,757,900	3,665,900	2.5
その他	2,027,649	1,635,276	24
合計	40,500,000	40,033,100	1.2

### 平成25年度予算の主な新規事業(抜粋)

**三郷中央地区公益施設整備事業 2,000万円**  
におどり公園付近に建設予定の公益施設の事業者募集・選定・契約等の業務。(民間資金を活用する定期借地権方式を予定)

**三郷駅前広場シェルター整備事業 1,700万円**  
シェルター整備及び歩道舗装改修等の設計を委託する。

**橋りょう長寿命化修繕計画策定事業 1,000万円**  
橋りょうを補修・補強で延命するための計画策定を委託する。

**送迎保育事業 1,800万円**  
みさとしらゆり保育園にて送迎保育を実施する。

**三郷駅南口駅前公衆トイレ改修事業 300万円**  
トイレ改修工事の設計を行う。

**パスポートセンター運営事業 5,830万円**  
市役所3階にパスポートセンターを設置する。

**小児時間外(初期救急)診療 1,750万円(拡充)**  
平日のみだった診療を土曜日にも実施委託する。

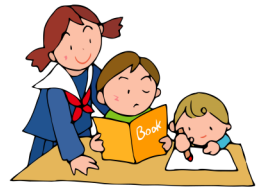
**小学校教育環境整備事業 1,540万円**  
新和小学校の教室不足に対応するため、仮設教室をリースする。



一般会計 (単位 千円,%)

歳出	平成25年度	平成24年度	増減率
総務費	4,884,919	4,721,566	3.5
民生費	15,753,560	15,143,643	4.0
衛生費	2,692,185	2,606,499	3.3
商工費	315,822	313,957	0.6
土木費	6,759,894	7,065,446	4.3
消防費	1,691,498	1,418,001	19.3
教育費	3,149,615	2,944,028	7.0
公債費	4,482,136	5,020,440	10.7
その他	770,371	799,520	3.7
合計	40,500,000	40,033,100	1.2

## 一般質問 小中一貫教育の趣旨を取り入れることについて



小中一貫教育とは？

中1ギャップ(授業内容の高度化や、先輩後輩といった上下関係など、新しい環境になじめず、不登校などになってしまう生徒が中学生になって急増すること)の解消を図ることを一義的目的としている。なお、学力向上も同様に大きな目的としている。



具体的には？

現行の小学校6年、中学校3年のいわゆる6・3制の義務教育課程を見直し、9年間を一つのカリキュラムとして小中学校が目標を共有し、例えば4・3・2区分を取り入れ、系統性と連続性をもった教育課程プログラムを行う。



どこの自治体が行っているの？

平成12年に広島県呉市で全国に先駆けて取り組み始めた。関東では品川区や三鷹市が先進的だが、近隣でも八潮市が取り組んでいる。草加市は昨年からは幼保小中連携教育に取り組み始めた。ちなみに三郷市は小中連携教育を推進している。



学校施設はどうなってるの？

大きく分けて2つの体系がある。

施設一体型...同じ校舎もしくは同じ敷地内に建てられている。

施設分離型...小中学校はそれぞれで存在し、中学校区での小中学校の教員・児童が行き来をしている



呉市の取り組み

4・3・2区分を取り入れ、小1～小4を前期、小5～中1を中期、中2～中3を後期としている。特に接続時である中期に重点を置き、小中における教員の相互乗り入れ授業や、小学校における教科担任制を取り入れている。



品川区の取り組み(4・3・2区分)

一体型の施設を順次開校している。選択制も導入している。小中一貫した学力観、小中学校の文化の違いによる弊害など学校制度の見直しは、小中連携では変わらない、教員の意識を変える状況を作るには、小中一貫教育と言い切っている。



三鷹市の取り組み(4・3・2区分)

中学校区で学園制をとり分離型で行っている。9年間の児童生徒の教育を本務とし、全教員が小中学校両方の教員として兼務発令を受けチームティーチングを取り入れ、授業力を高めている。全小中学校に市独自の加配教員を配置している。



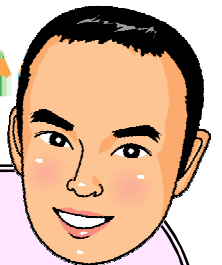
小中連携教育とは？

小中学校が個別の学校であるとの前提もと、教育目標やカリキュラムの共通する部分について連携する取り組みである。小中教員の情報交換や、行事等で小中学生の相互交流が図られている。生徒指導面での中1ギャップ解消を目的としている。



三郷市の小中連携教育の取り組み

小中学校陸上競技親善大会、児童会生徒会での交流、小中合同あいさつ運動、合同演奏・合唱、小学校運動会への協力、小学生の部活動への体験入部、職場体験学習3デイズチャレンジ、長期休業中での中学生による小学生への学習支援、本の読み聞かせ及び小中教員による情報交換や合同研修など。



### あいざわ圭一郎の提言

現在まで小中連携教育及び授業規律の徹底を指導されてきたことで、不登校生徒数の激減、学力の向上など成果が出てきたことは理解しております。その様な中、連携教育の充実から今一步踏み込んで、一貫教育の手法を取り入れてみてはいかがでしょうか。

小学校から中学校への接続時には、やはり生活環境を変える、新しい環境でスタートさせることが大事だと思っています。従って、施設一体型としての小中一貫の考え方ではなく、分離型、連携教育の延長として捉えているところです。

出来る子を伸ばしていくことも当然大事なことです。同様に出来ない子を救うというか支えるというか出来るように指導していくことも公教育においては、おそれないことだと思いません。

そういった観点からすると、小中学校の接続時の段差といものは、出来る子にとってみればさほどでもないことが、出来ない子にとってみれば大きな負担というかやる気にも関わってくるのだと思います。越えなければならない段差ですけれども、その段差を少し低くすることも必要ではないでしょうか。

それが4・3・2区分を用いた小5小6中1における指導力強化という意味で、相互乗り入れ授業や、小学校における一部教科担任制なのだと思います。

これは、出来る子にとっても出来ない子にとっても学力向上に繋がるものだと思っています。

本市でも兼務発令及び相互乗り入れや、小学校における一部教科担任制を取り入れている学校もあるようですが、全小中学校に広めていくべきではないでしょうか。

独自(市の予算)の加配教員が現在14人いますが、小中学校で27校ある訳ですから、せめて1校に1人配置して、小学校5年生から中学校1年生までに特化し、指導力強化へと繋げていただきたいと思います。